



多田小学校通信

多田の里 だより



令和4年9月30日号 ミマモルメ配信

今後の予定について

9月30日現在 各学年の予定は学年だよりをご覧ください

修学旅行と自然学校

二学期は、行事をたくさん予定しています。コロナウィルス感染症対策を意識しながらの実施になります。9月は6年生の修学旅行、5年生の自然学校を行いました。どちらも子どもたちや引率の先生たちがそのことを意識しながら行動していたことが印象に残っています。共通しているのが、静かな食事風景です。一定の方向を向いたり、距離を広くとったりしながら黙食です。と言いつつ話をするときもあります。その時に注意をする先生の表情が忘れられません。本当はみんな楽しく話をしながらワイワイする時なのだという思いがにじみ出ていました。そんな思いを子どもたちも感じながら行動していたようです。相手のことを思いながら発言し行動する関係が、この嫌な状況でもお互いを支えあっているのだと思います。

修学旅行では、今年度からバスを利用しました。新幹線は時速200km以上出ます。バスは、その半分以下の時速100km未満です。単純にとっても長い時間になると心配でしたが、思いのほか快適な時間を過ごせました。静かに過ごしていましたが、新しいことをしてみるのも発見があり良いものだと思います。不都合があればまた検討していけばいいということでしょう。平和学習、宮島見学、班別行動などたくさん勉強し楽しんでいました。しかし、昨年自然学校に宿泊なしで行った影響も実はありました。それは、ふとんのシーツの使い方がわからないということでした。思わぬ事態に引率した先生たちもびっくりです。子どもたちには、様々な経験が必要なのだと改めて感じるべきごとでした。



そして、5年生の自然学校。こちらも宿泊が初めてですが、泊数が2日で実施しました。以前は4泊でしたが、その半分です。シーツかけを経験するのがこの宿泊です。ふとんのたたみ方、汚れた服のまとめ方など、いろいろと経験していきます。うまくできないときには人に助けってもらったり、助けたりという経験も自然と行われていきます。そして人と人が長い時間一緒にいれば、当然トラブルも生まれます。しかし、同時にその解決方法も学んでいくわけです。

6年生も5年生もいろいろな経験をしました。日常とは異なる状況で様々な経験をするのは、これからの成長過程で幾度もやってきます。そしてその都度成長していきます。そんな姿を見守り、支えつつ同じ時間を過ごすことは、教師のだいご味かもしれません。(9月は教育実習生が3人来ています。本校卒業生、教師の卵たちです。)

同時にその解決方法も学んでいくわけです。



人権参観・懇談

人権参観と聞いたとき、少し構えてしまいます。人権って難しい、よくわからない、懇談のとき、見当違いの発言をしたらどうしよう。そんな思いが浮かんだり消えたりします。間違っているも見当違いであってもいいのではないのでしょうか。私の発言を聞いた誰かが、「私は だと思っています。」と言ってくれたことから新しい気づきに広がれば、それが大人の人権学習だと思います。良いことではないですが、気づきながら人権侵害をしているとすれば、修正は可能です。すでに人権問題だとわかっているからです。でも、気づかずにしてしまっていることについては、気づくまでその行為の修正ができないのは、子どもも大人も同じです。

率直な思いを相互に受け止めあいながらお話しできれば、穏やか空気に包まれ、人権学習ができるのではないのでしょうか。学校、家庭、ご近所、職場などなど、人が集まれば、私たちはそれぞれ人権が守られなければなりません。そのために子どもたちだけではなく、私たち大人にも継続した人権学習が求められているような気がします。お話しませんか？